

映像教育におけるカリキュラム研究 (6) : メディアミックスによる新しい放送教育の研究

著者	吉田 貞介, 上出 雅
雑誌名	教育工学研究 = Studies in educational technology
巻	13
ページ	73-87
発行年	1987-09-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/24802

映像教育におけるカリキュラム研究(6)

——メディアミックスによる

新しい放送教育の研究——

吉田 貞介* 上出 雅**

はじめに

近年ニューメディアの発達にはめざましいものがある。そのハードの発達につれて、INSやCATV等さまざまな映像メディアに関する構想が、日々現実のものに近づきつつある。このような現実の社会の中で学校放送の教育現場での位置づけとしては、未だに、「テレビによるダイレクトティーチング」にたよる部分が多いように思われる。しかし、現在の児童達は、近い将来確実におとずれる多情報化社会の中で生活していかなければいけないのである。そのような児童達にとって、「今後必要とされる能力とは、どのようなものなのか」また、「その能力を身につけさせるには、どのような指導が必要なのか」という問題意識に立って昭和61年度の研究をスタートさせた。つまり、多情報化社会の中では、情報が一方的に送られてくることが予想される。そのような中で、多くの情報を客観的にとらえ、選択・処理し、活用していくことができる能力が必要とされるのではないかと考えた。幸い、単一情報(TVの教育放送等)に関する情報処理能力の育成に関しては、「金沢市小学校放送教育研究会」の先行研究があるため、これを利用し、NHK教育番組を核にして、他のメディアを組み合わせることを試みたわけである。しかし、複数の情報を選択・処理し、活用していくには、はっきりとした目

的意識や複数の情報を並行的に処理していくための基礎的な能力や知識が必要である。そして、それらをトレーニングすることにより、「多情報化社会」の中で情報にふりまわされず、自分の目的に合った情報を選択し、活用していくことができるのではないかと考えた。

かつて、クロスメディア・アプローチ、マルチメディア・アプローチといわれる多媒体学習の必要性がさげられた。この、媒体のちがいによる授業でのアプローチのちがいは尊重しなければならないが、むしろ媒体の持つ多様な情報(メッセージ)を重視する立場に立っている。その上で、「放送教育の段階」という観点で図-1のような仮説を立てた。この中でも「段階1と2」は、これまでの放送教育のたどってきた過程である。また、「段階4」の中の「教師」が省略されたものは将来おとずれる多情報化社会を想定したひとつのビジョンである。この2つのはしわたしをする「段階3」の部分が、近い将来(現在を含む)学校教育の中で必要とされる新しい放送教育の姿と考える。

また、基幹番組を選ぶにあたっては、近年話題になっている「地域社会と結びついた学校教育」、「人間教育(ヒューマンラーニング)」という視点に立ち、さらに近々実施される小学校1、2年生での「生活科」を3学年以後の総合学習にどうとりいれていくかという視点も考慮した。その結果、昭和60年度から放送されて

* 吉田 貞介 金沢大学教育学部

** 上出 雅 金沢市立三和小学校

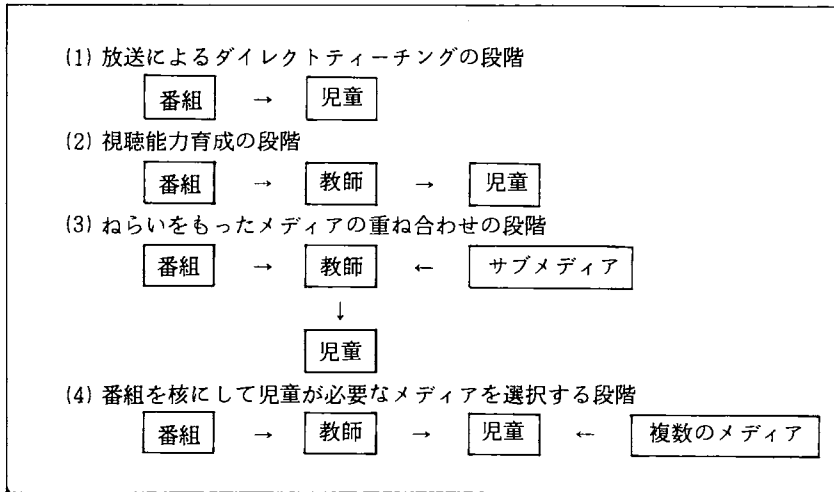


図-1 放送教育の段階

いるNHKの教育番組『にんげん家族』が適しているのではないかと考えた。この番組をとりあげることにより、これまでの知識重視の学習から情意面にも切り込んだ学習ができるのものと判断した。

I 研究のねらい

複数のメディアを用いて授業設計を行う場合、「教師の意図」「対象とする児童の年齢」「実践校の地域性」等、多くの不確定な要素を含んでいる。その中で、メディアをうまく位置づけていくために、次の2点に研究のねらいをおくことにした。

- (1) メディアミックスをしていく際の授業設計は、どのような手順で行えばよいか。

教師が授業設計を行う場合、必ず何らかのねらいをもって授業を設計する。メディアミックスによる授業設計においても例外ではない。しかし、この場合不確定な要素を多く含んでいる。それらの要素を包み込みながら授業設計を行っていくには、どのような手順をふめばよいかを授業試行を通して明らかにしたい。

- (2) 予想される児童の番組の読み取り方にしたがった番組分析をどうすればよいか。

授業の中心となる番組が、どのように受け手に伝わっていくのかを授業実践の前に教師が把握する必要がある。こうすることにより、より効果的なメディアの選択が可能になり、授業の中で教師が自らの授業の意図を前面に出していくことができるのではないだろうか。つまり、従来の放送教育のようにテレビのもつ直接教授性のみを重視していくのではなく、教師が意図的に複数のメディアを組み合わせて児童に提示していくことを「新しい放送教育」と考えたわけである。その際もととなる番組（基幹番組）を分析していく手法をつくりあげたい。

以上の2点を柱にして、授業設計を行い具体的な授業試行を行う場合、次のようなことにも力点をおきたい。

- (3) 児童の思考の流れを明確に表すための指導案をどうつくればよいか。

授業の中でメディアが児童の思考に与える影響は大きい。複数のメディアを提示する場合、その順序やタイミング、手だてにより、児童の

思考は大きく変えられる。それだけに、授業の流れやメディアの位置づけ、さらに児童の思考の流れが明確にならないと、授業のねらいが不明瞭になることがある。この点を考慮して、児童を教師の提示するメディアによってどう変容させていくのか。また、最終的に授業のねらいに到達させるには、メディアをどう位置づければよいかを考えたい。

以上3点を研究のねらいとし、メディアミックスによる新しい放送教育のあり方を実践的に試行していきたい。

II 研究の方法

以上のような研究の目的に従い、具体的な研究を進めていくために、以下のような手順で行うことにした。

(1) 研究テーマの焦点をしぼる段階

- ア 予備試行の成果を受けた授業試行
(基幹番組「チンパンジーのお父さん」)
- イ 試行の反省から出された課題の洗い出しと検討
- ウ 基本的な考えを基にした指導案のモデルパターンづくり

(2) 基幹番組の分析方法を探る段階

- ア モデルパターンの指導案を用いた授業試行
(基幹番組「チャーリーなぜ荒れるの」)
- イ 授業意図とメディアメッセージの複合効果の検討
- ウ メディアミックスのための客観的番組分析の手法開発

(3) 授業設計の手順を開発する段階

- ア 授業設計にかかわる要素の洗い出し
- イ 要素の吟味、検討と、そのわりつけ

- ウ 授業設計の手順にしたがった授業試行
(基幹番組「君には宝物があるか」)

III 結果と考察

(1) 研究テーマの焦点をしぼる段階

ア 予備試行の成果を受けた授業試行

この研究の方策をさぐるために、ひとつの実践を行った。それは、NHK教育放送の『にんげん家族(「チンパンジーのお父さん」)』を用いて、どのような授業が考えられるかという授業試行である。そこで、3つの授業のねらいが出され、3通りの指導案により6つの実践を行うことができた。その結果表-1のような意見がだされ、この意見にもとずいてテーマのしぼりこみを行った。

イ 試行の反省から出された課題の検討

(表-1)の反省を受けて、指導案を考える際次の点を考慮して行った。

① メディア複合のねらいの明確化

基幹番組が、どのようなメッセージを送ってきているのかを教師が判断しておく必要がある。さらに、そのメッセージのどの部分が番組では不足したり、強く前にでていいるのかを考えて、それをどのように授業のねらいにとり込んでいくかを明確にしておかねばならない。そうすることにより、サブメディアの必要性や授業意図

表-1 授業者の意見

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・メディアを複合した時点で教師はなんらかの意図をもっている。これは、授業のねらいに直接的に関与してくるものである。このことをより明確にするにはどうすればよいか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・授業を行う以上児童になんらかの思考の変容をあたえなければならない。つまり授業を通して児童に期待する思考活動とその流れをどう表現すればよいか。 |

・「指導過程」は単に時系列的に表現してしまうと、ねらいに対するポイントがぼやけてしまうことがある。また、与えるメディアも順序や与え方をかえると、児童の思考に大きな影響を与えることがある。このような点を考慮した最も効果的な指導を行うための「指導過程」の表現方法はどうかあるべきか。

から見た基幹番組の位置づけ等が、今までより明確になると考えた。

② 期待する思考活動の明確化

番組のメッセージとサブメディアのメッセージを「どんな内容を、どんな場面で、どのように導いていくのか」を表現する項目を付け加えた。こうすることにより、各メディアの授業中での位置づけをはっきりさせ、授業の山場での指導や教師の立場をわかりやすく表現することができた。そして、授業のねらいと基幹番組をより具体的に結び付けることができたかどうかを考えた。

③ 「指導過程」の表現方法

以前、当研究会が用いた項目

- a 学習の流れ
- b 教師の働きかけ
- c 児童の思考

という書き方には、その順序性からもわかるように、学習事項に対して教師がどう働きかけ、それによって児童がどう反応していくかを単に時系列的に並べたただけのものであると批判が出されていた。それに対して次の点を改善点とした。

- a 児童の思考の流れや変容を中心にすえることが、授業を行う上で最も重要なことではないか。
- b 児童の思考に変容を起こさせるきっかけをつくるメッセージの与え方や教師のきっかけを、はっきりと表現する必要があるのではないか。

以上の2点を「指導過程」の中心におくこ

ととした。

ウ 基本的な考えをもとにした指導案のモデルパターンづくり

イで出された点を考慮してつくった指導案のモデルパターンが図-2である。これらの指導案では次の点が改善されている。

- ① メディア複合のねらいの書き方を改善する。
- ② 期待する思考活動の書き方を改善する。
- ③ 指導過程の項目を、「学習メッセージ」と「思考の変容過程」の2つにする。また、指導のポイントや児童の思考の流れがわかりやすく表現されるように留意する。

こうすることにより、授業者自身が自分の授業意図を再認識し、実践においても確実にねらいを達成できるのではないかと考えた。この際用いた番組は「チャーリーなぜ荒れるの」である。

(2) 基幹番組の分析方法を探る段階

ア モデルパターンを用いた授業試行

改善型の指導案による授業試行の後「授業者の意見と番組のメッセージがうまくマッチングしていたか」という観点で、授業をふりかえった。その結果、うまくマッチングしていないものがでてきたため、その原因の検討を行った。この試行にとりかかるにあたり、教師のねらいを決めるスタートになるものは、基幹番組の視聴である。この視聴の段階で、教師が番組をどう受け取ったかを調べると、一人一人により異なる結果が出てきた。これは、教師の番組の受け取り方の個人差によるもので、一般的な番組に伝わり方とは多少異なってくるものである。つまり、主観的にとらえた番組を授業の中に位置づけると、授業のねらいと番組の間にずれが生じてくるわけである。これは、複数のメディアを選択して授業をデザインしていく上では最も重要なことである。

「にんげん家族」指導案

1. 題材 チャーリーなぜ荒れるの
2. 授業のねらい チンパンジー村の中でもひととき目立って荒れるオスのチンパンジーの行動と、群れを統率しどんなにこわくても立ち向かうボスのジョーの行動を比較しながら大人と子どもの間にいるチャーリーの心の葛藤をさぐる。
3. メディア複合のねらい
 - ・この番組では、大人のまねをしたり子どもの世話をしてみせて、自分が大人になったことを主張しているチャーリーの姿を描いている。しかし、本当のボスはどんな行動をとるかは明確にはだされていない。
 - ・そこで、チンパンジー村のボスのジョーの、集団を統率していく勇敢な行動をイメージ化させることで8歳のチャーリーの大人へ成長しはじめていく様子をはっきりつかませる。
4. 複合メディア及びその内容
 - ・「チンパンジーのお父さん」(VTR)の、人形を使った実験部分を音声なしで使用する。
 - ・とっぜんチンパンジー村に投げ込まれたビニール人形、だれもこわくても近付けない。群れは一種のパニック状態になっている。群れのボスであるジョーは、かかんに立ち向かう。自分も本当はこわいという心と戦いながら……。
5. 期待する思考活動
 - ・生物としての人間の心の成長・発達過程をチンパンジーのケン太(子ども)・ジョー(大人)との比較の中で考えさせたい。
6. 指導過程

時間	学 習 メ ッ セ ー ジ	思 考 の 変 容 過 程
5	・大人と子どものちがいをイメージ化させる。	大人は働いているのでたいへんだ。でもずるいところもある。ぼくちも勉強をしている。大人と子どもはどこがちがうのかな。
15	映像(チャーリーはなぜ荒れるの) <ul style="list-style-type: none"> ・チャーリーのいたずら ・ボスのまね ・大人のチンパンジーに相手にされない。 ・ケン太とかたくみ ・チャーリーの寝姿 ・ビニール人形がこわい ・いたずらチャーリー 	チャーリーはどんなときどんな行動をとるのかな。おもしろい場面をメモしておこう。
10	印象場面のイラストを発表させる。	あばれん坊のチャーリーボスのまね ケン太とかたくみなの世話をさしい。 ビニール人形がこわい。相手にされない。

図-2 指導案のモデルパターン

イ 授業意図とメディアメッセージの複合効果の検討

1つのメディアによる思考の変容というものは、これまでの多くの研究によって立証されている。しかし、ある思考の変容を想定したメディアの提示を行うには、メディアの持っているメッセージを的確にとらえておく必要がある。使用するメディアが複雑になれば、基幹番組の持つ重要性も増してくる。こういう意味で、教師の意図をメディアによって確実に児童に伝えるためには、基幹番組の客観的な分析が重要になってくる。

ウ メディアミックスのための客観的番組分析の手法開発

客観的な番組分析を行うにあたって、次のような基本的な立場をとった。それは、番組を受け取るのはあくまで個人の主観であり、その主観を集約することにより、客観的な番組の受け取り方とするということである。このような考えに立って、次にあげる手順で分析を進めていった。

- ① 複数の教師で番組を視聴しながらキーシーンをメモする。この時次の点に留意した。
 - a メモは映像を見ながら児童がとらえられる程度の場面や場面メッセージ・心に残ったこ

- とを書く。
- b 映像メッセージに限定し、ナレーションが必要な時はカッコ書きでつけ加える。
 - c できるだけ個性的なものを書く。
- ② 視聴後、キーシーンどうしのつながりを考えて線で結ぶ。
 - ③ 印象の深かったキーシーンとつながりを表す線を5個程度選び出して、出し合う。

- ④ 出てきたキーシーンの内容とそれを出した人数を集約する。
 - ⑤ つながりをもとにして、キーシーンとそれらを結ぶ線を1つの図に表す。
- こうしてできた番組分析表が図-3である。図-3では、「君には宝物があるか」という番組を用いた。図-3の「内容」の部分を見ると、1・4・6・7・9のシーンを多くの分析

内容 (カッコ内はナレーション)	取り上げた人数
1. 小さな桜サカコザクラ (外国の草)	****
2. にんじんのとりいれを手伝う子どもたち	**
3. 戦後の引き上げ者の映像	*
4. 切り株だらけの写真	****
5. 学校のうら (昔、作業をした所)	**
6. 大きなノコギリや昔の農具 (開拓当時の農具)	****
7. カマの立てられた村のお墓	*****
8. おじぞうさま	**
9. キラキラ光る七宝焼の帯留め	*****

者が取り上げており、これらは番組の中でもシンボリックなシーンであることがわかる。しかし、これらのつながりまで考えた下記の「構造図」を見ると、「切り株だらけの写真」「カマの立てられたお墓」「大きなノコギリや古い農具」というシーンが強く出てきていることがわかる。このことから、この番組は全体を通して、「サカコザクラ、七宝焼の帯留め、おじぞうさまという現在の宝物のうらにある、開拓当時の人々の苦勞」というメッセージを伝えてきていることがわかった。

(3) 授業設計の手順を開発する段階

ア 授業設計にかかわる要素の洗い出し

授業を設計していく上でスタートとなるものは、「教師のねがい」である。それをより具体化していったものが「授業意図」であり、そこへ導くための方策が「授業展開」である。これ

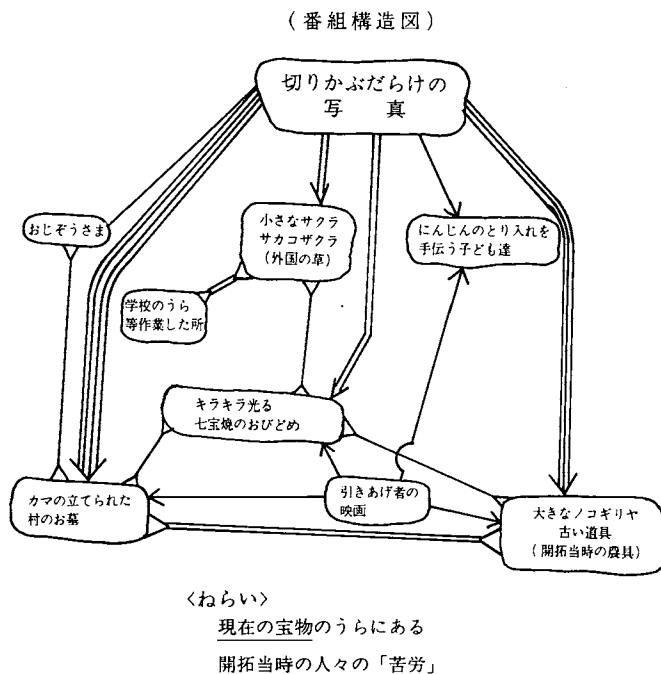


図-3 にんげん家族「君には宝物があるか」番組分析表

は、ごく一般的な教育工学的授業設計の手順の概略である。しかし、複数のメディアを扱う場合、次の要素が入ってくることがわかった。

- ① 基幹番組の制作意図の認知。
- ② テーマに対する教師の考え方。
- ③ 基幹番組に含まれるメッセージの分析
- ④ 基幹番組の位置づけ
- ⑤ メディアの配列

- ⑥ サブメディアの選択
 - ⑦ 授業タイプの決定
 - ⑧ 視聴カードの決定
- 以上の要素である。

イ 要素の吟味・検討と、そのわりつけ
前項で出された要素を順を追ってわりつけていったものが、図-4である。この図からもわ

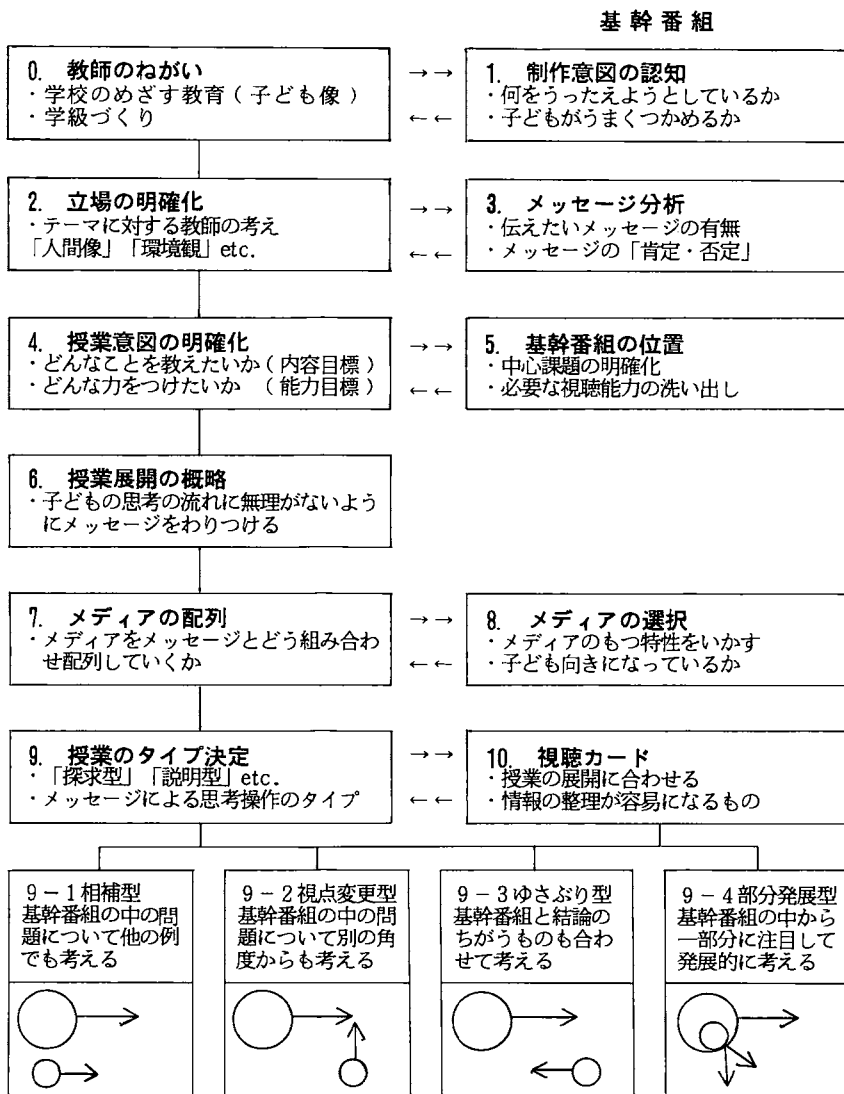


図-4 授業設計の手順

かるように、左の列は教師が授業を設計していく各段階である。その段階によって、基幹番組やサブメディアをさまざまな角度から検討し、授業の中に位置づけていった。また、左右の矢印が行き来しているのは、メディアを単に授業設計の中に組み込んでいったのではないことを意味している。なぜならば「メディアを組み合わせることにより教師の意図を児童に伝える」という考え方に立つため、メディアが授業設計にしめる位置が大きいからである。こうすることにより、例えば「教師のねがい」と「制作意図の認知」の間を行き来することによって、教師のねがいや立場がより明確になるからである。すなわちそれ自身が深まるとともに、次の段階の必然性やメディアの必要性につながってくるのである。

ウ 授業設計の手順にしたがった授業試行

以上の手順にしたがって授業を設計していった。授業設計をしていく上では表-2のように、各要素をわりつけていった。これにより、各授業のねらいや流れを明確にすることができた。この時に用いた基幹番組は「君には宝物があるか」である。また、その実践の内容と結果の一部が実践1~3のものである。

IV まとめと今後の課題

研究の結果が出そろった段階で研究のねらいにそってまとめてみたい。

(1) 基本的な考え方をもとにした指導案のモデルパターンづくりについて

指導案のモデルパターン(図-2参照)を用いたことにより、次のことが明らかになった。

ア 「メディア複合のねらい」を明記することにより、授業のねらいに対する基幹番組のとりえ方を確認することができた。

イ 「期待する思考活動」を書くことにより、

メディアの位置づけが明確になるとともに、授業意図に対するメディアの必要性を導く根拠とすることができた。

ウ 「指導過程」の書き方を改善することにより、項目主義ではなくメディアのメッセージが見える形で授業をデザインすることができた。また、思考の流れが見えることにより、ねらいに合った指導ができるようになったことは、大きな成果である。

(2) メディアミックスのための客観的番組分析の手法開発について

基幹番組の分析表(図-3)をつくることにより、次のことがわかった。

ア これまでの時系列分析ではわからなかった「構造的なとらえ方」ができるようになった。そのため、番組の中にあるそれぞれのメッセージの位置づけやそれらの関係をひとめで把握することができ、番組全体として送られてくるメッセージをわかりやすい形でつかむことができるようになった。

イ 基幹番組の授業への位置づけを根拠を持って行うことができるとともに、サブメディアを選択する根拠を導くこともできるようになった。

ウ グループで行うことにより、個人の主観と客観とのずれを認識することができた。この手法はまた、教師自身の視聴能力のトレーニングにも効果的であると思われる。しかし、このことには、分析に参加する個人に基本的な視聴能力がそなわっていなければいけないという必要性も感じた。

(3) 授業設計の手順にしたがった授業試行について

授業設計の手順(図-4参照)の開発とそれにしたがった授業試行を行うことにより、次のことがわかった。

表-2 実践の要素わりつけ表

クラス ポイント	実践 1	実践 2	実践 3
教師の ねがい	人(家族・友達)の思いや物の存在感を知ることが大切なことである。人や物に対し、暖かい心の持てる人間になってほしい。	自分の生活がいろいろな人たちの努力に支えられていることを知り、それらの人々に感謝できる子であってほしい。	自分の校下に対する愛着心を持ち、地域社会を積極的に築きあげていく子になってほしい。
立場の 明確化	宝物は「高価な物」だけではなく、そこに秘められた「思い出」にも高い価値がある。	「地域の宝物」のうらには、先人の苦勞への感謝の思いがこめられている。	現在行われている地域活動のうらには新しい社会を築いていこうとする思いがこめられている。
授業意図の 明確化	父母へのインタビューを通して、テレビの登場人物だけでなく、身近な人にも心の宝物があることを理解させる。それによって、今まで知らなかった父母親の側面にふれる。	他の地域の人たちにとってはつまらないものでも、その地域の人たちにとってはかけがえのない宝物がある。その宝物にこめられている思いを通して、先人の苦勞と今もそれを大切にしている人たちの心を知る。	過去を大切にすることが今を大切にしていくことにつながる。未来に広がるみんなの宝物をつくること、人の心がつながっていくことを知り、そのような地域活動ができる心を育てる。
授業展開の 概略	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の宝物と、それがなぜ宝物なのかを話し合う。 2. テレビを視聴する。 3. できた宝物と、それがなぜ宝物なのかについて発表する。 4. テレビの宝物について自分の考えを持つ。 <p><お父さん、お母さんはどんな宝物を持っているのだろう。どうしてそれが宝物なのだろう。></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. お父さんお母さんにインタビューする。 6. まとめて自分のコメントを含めてレポートする。 7. お父さんお母さんの宝物を通して、心の宝物を知るとともに新しい側面に気付く。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「天保義民の碑」の保存会の顕彰行事を提示し、地域の人々が大切にしていることを学習する。 2. テレビを視聴する。 3. 宝物についての意見を発表しあう。 4. 「天保義民の碑」について話を聞く。 5. 保存会の人に話を聞く。 6. 思ったことを発表する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の行事さがし、(自分達の地域の行事をふりかえる。) 2. サブメディア(地域の世界話役へのインタビュー-VTR) 3. 行事の意義や意識について考える。 4. テレビを視聴する。 5. 自分達の地域の特性を考える。(厚目内と比較する。) 6. 新しい地域での宝物について考える。
メディアの 配列	基幹番組 「君には宝物があるか」 サブメディア ・父母へのインタビュー	基幹番組 「君には宝物があるか」 サブメディア ・顕彰行事のスライド ・お寺の人の話 ・保存会の人へのインタビュー-VTR	基幹番組 「君には宝物があるか」 サブメディア ・地域の人へのインタビュー-VTR

ア 授業設計の手順が見えることで、授業のねらいのすじを通すことができ、教師のねらい通りの授業を組むことができた。

イ どの段階でどのようなメディアを与えていくかを見通しをもって設計することができた。
ウ 段階を追って設計することにより、1つ1

つのメディアに必然性がでてきた。このことにより、これまでの場当りのメディアの使用を内容的に大きく変えることができたのではないと思われる。

エ 授業タイプをちがえることにより、その位置づけが見え、教師が児童の思考をコントロールしていく上で大きな助けとなった。

(4) 放送教育の多様化について

3回目の試行(昭和61年12月試行)から、総合学習としても次のような方向性を見つけることができた。

ア 実践2・3の比較からわかるように、地域とのふれあいを基本的に持ちながら、新旧正反対の地域差に応じた実践を行うことができた。また、この実践では、「教室教師」「TV教師」「地域教師」の3者をミックスしたわけであるが、これにより、地域と結びついた総合学習を実現することができた。そして、このような学習が今後必要となってくるのではないと思われる。

イ 実践1では、児童の親の価値観にせまるもので、これまでの道徳教育では切り込めなかった一分野を開くことができたものと考えられる。

この他にも、複数のメディアをミックスさせることで、多情報化社会を想定した情報処理能力のトレーニングをすることができたのではないと思う。

(5) 今後の課題

以上のようなまとめをするとともに、つぎのような課題も出てきている。

・今回は、「受け手の論理」にしたがった番組分析を行ったが、授業設計に正確に位置づけるには、「送り手の論理」も加味していく必要がある。

・複数のメディアを与えた場合、児童に批判的

な視聴能力がないと、単に与えられた情報の受容に終わることがある。さらに、送られた情報に対する批判的視聴能力をどう扱うか考える必要がある。

・上記2項を解決する1つの方策として制作能力の育成があげられるが、このカリキュラムは確立していない。この点についても今後考える必要がある。

・さらに『にんげん家族』のようなパッケージ系の番組が増えてくることが予想されるが、これらを総合学習としてどのように取り入れるか考える必要がある。

・複数のメディアを組み合わせて教師の意図を授業の中に反映していくには、教師にもメディアの視聴能力や授業設計にかかわる能力が必要である。

このように、今回の研究を終えるにあたっていくつかの成果が見られた一方さらに大きな課題をかかえることになった。「高度情報化時代」の到来が叫ばれる中で、ますます「ブラウン管情報」の占める位置は大きく、中でも放送教育の発想の転換が現実の問題となってきた。

この研究もこうした問題意識のもとでスタートしたわけであるが、もう一度「テレビとは何か」という原点に立ち返って、さらに「新しい放送教育」への模索を続けてみたい。

実践-1

① 指導案

1. 題名「君には宝物があるか」
2. 授業のねらい

親の宝物を知ることによって、親の新しい側面に気づく。

3. メディア複合のねらい

「君には宝物があるか」を視聴することにより、児童が持っている宝物のイメージ(高価な物、ただ単に大切な物etc.)を変えたり抜けたりしたい。今回はTVのような宝物が実は自分の最も身近な人である親にあること

をインタビューを通して理解させ、親の新しい側面を知る手だてとしたい。

4. 複合メディア及びその内容

親へのインタビュー……一番大切な宝物とその理由

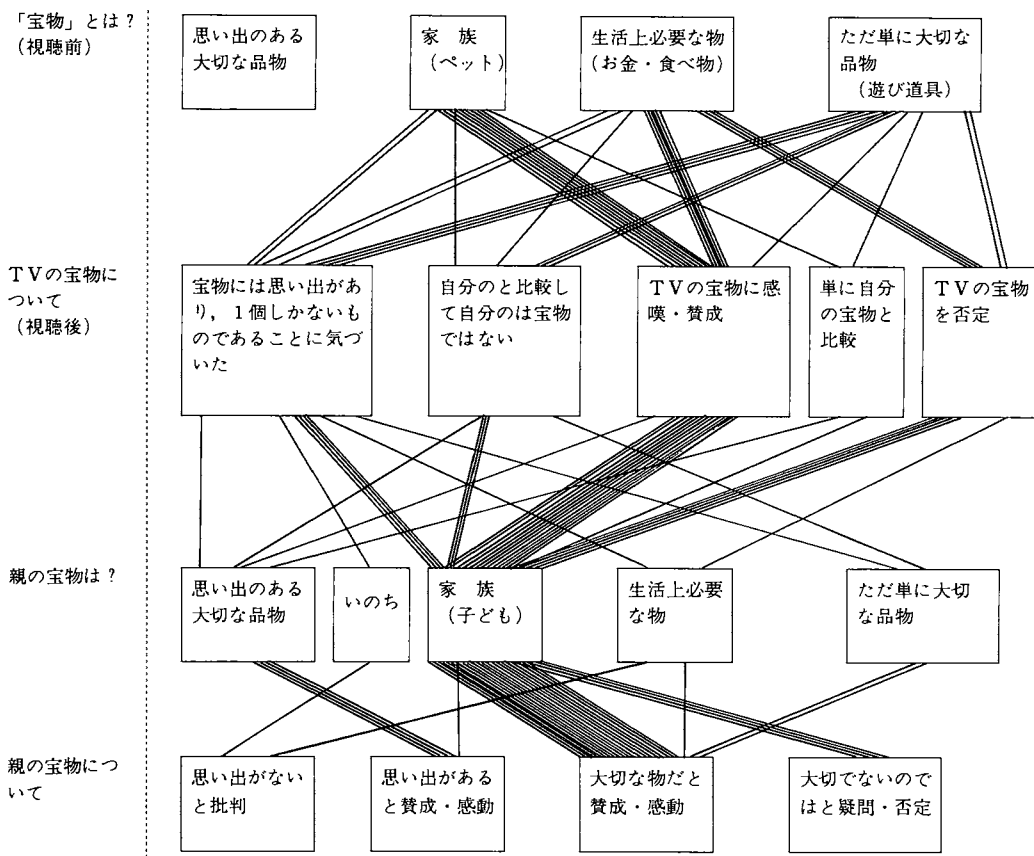
5. 期待する思考活動

TV視聴によりイメージが変わった宝物が、身近な親にもあるんだということで宝物のイメージを定着させたい。

6. 指導過程

T	学習メッセージ	思考の変容過程	評価
10	<ul style="list-style-type: none"> 自分の宝物とその理由 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・ファミコン 楽しめるから </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・ペット かわいいから </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・お金 ないと生活 できない </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 視聴前「宝物」についてどういうイメージを持っているか。
15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・映像「君には宝物があるか」 ・サカコザクラ ・七宝焼 ・おじぞうさま </div>	<p style="text-align: center;">〈どんな宝物がでてくるかな〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> TVから「宝物」をみつけることができるかどうか。
10	<ul style="list-style-type: none"> TVにはどんな宝物ができたか？それはなぜ宝物なのか。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・サカコザクラ 日本でここで しかない </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・七宝焼 大切な思い 出がある </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・おじぞうさま 村の人を守 ってきた </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 視聴後「宝物」のイメージが変わったかどうか。
10	<ul style="list-style-type: none"> TVの「宝物」についてどう思いますか。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> ・1つしかないものが宝物なんだ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> ・みんなの宝物があるとは知らなかった </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> ・こんなものがどうして宝物なのかわからない </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> ・どの宝物にも思い出があるんだね </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 視聴後「宝物」のイメージが変わったかどうか。
課	<ul style="list-style-type: none"> お父さんお母さんにはどんな宝物があるかな？ 	<p style="text-align: center;">〈お父さん お母さんにはどんな宝物を持っているのだろう。どうしてそれが宝物なのだろう。〉</p>	
課	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー「お父さんお母さんの宝物」 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・思い出の物 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・子ども </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・大切な物 </div> </div>	
外	<ul style="list-style-type: none"> お父さんお母さんの宝物についてどう思いますか。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・お父さんお母さんにこんな宝物があるとは知らなかった </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・ぼく(わたし)が宝物なのでうれしい。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> ・なぜこれが宝物なのかな </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> お父さんお母さんの「宝物」に対し賛否を言うことができたかどうか お父さんお母さんの新しい面をみつけることができるかどうか。

② 児童の思考の流れ図



③ 結果と考察

視聴前、大部分の児童は「宝物」とは単に大事な物、必要な物という意識であったがTV視聴により思い出のある物とか大切な物というように「宝物」に対するイメージが変わっていった。親へのインタビューでは、大切な物という意識で質問したため感想のほとんどは大切な物という視点で書かれていた。

4年生では、「宝物」の裏にひそむ思い出(苦勞)をTV視聴では十分とらえられないと予想していたが、約3分の1ぐらいの児童がとらえていたことから、キーシーンをとり出し、宝物と思い出に分け、その関係をとらえさすことも可能だったのではないかと思う。そのことによ

り宝物と思い出の関係をより密接にとらえさすことができると思う。

「親の宝物は?」ということで親の宝物と思い出をさぐらせたいということで、インタビューをサブメディアとして取り入れたが、思い出のある宝物を持っている親が少なくねらいに十分せまりきれなかった。ただ、親の「宝物」を知り、親の新しい側面に気づくというねらいは十分達成されたと思う。

実践-2

① 指導案

にんげん家族「君には宝物があるか」学習指導案

1. 題材名 君には宝物があるか

2. 授業のねらい

地域で守り伝えられてきた歴史的遺物を、先人の苦労・努力という観点からとらえ直し、地域の人たちがそれらの遺物に寄せる思いを知る。

3. メディア複合のねらい

にんげん家族「君には宝物があるか」で、他の地域の人にとってはつまらない物であっても、その地域の歴史の中で、人々の苦労を考えていくことへの方向づけとする。

その上で、自分たちの身近な地域にも目を向けさせ、先人の努力を顕彰しようとする人々の思いに共感させるために天保義民碑を取り上げていきたい。

4. 複合メディア及びその内容——天保義民碑

天保九年の不作に伴う年貢減免運動（天保義民事件）の中心となって、処罰された人々の遺徳を顕彰するために明治31年建立。題字は勝海舟の字。その後、金沢駅西区画整理事業に伴い駅西中央公園に移転、現在に至る。近年まで12月には盛大な法要が営まれてきた。

天保義民15名のうち、6名が鞍月小・西小校下の南新保村の農民であり、その子孫も現存している。

5. 期待する思考活動

今ではほとんど観られることのない遺物も先人の活動の歴史のモニュメントであることを知り、地域の人々がそれら遺物を大切にする気持にも共感を持つ。

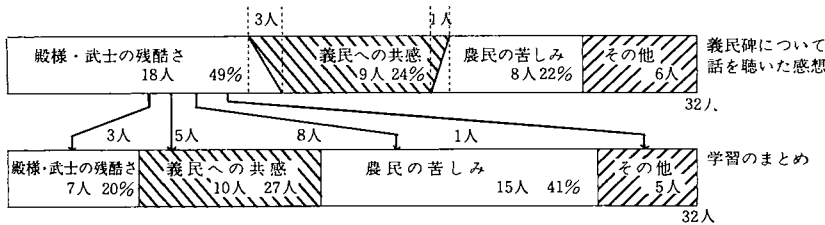
6. 授導過程

T	学習メッセージ	思考の変容過程	評価
5'	天保義民碑保存会の顕彰行事を写真で提示する。	お祭り おそう式 何かの行事 ?	
5'	・なぜ、こんなに大切にしているのだろう。	なんか大事なものみたいだな ?	
15'	TV視聴……VTR	サカコ 七宝焼の 古い農具 カマの立て おじそう サクラ 帯留め られた萋 さま	・テレビから宝物を見つけることができたか。
10'	・どんな宝物があったか ・それがなぜ宝物なのか	外国の花 母から伝 昔の人が使 苦しかっ みんなを守 かない えられた。 った。開拓 たころ、 ってくれた。	
10'	・スライドについてもう一度考えてみよう。	苦しかった開拓時代の思い出があるんだ ?	・開拓時代の苦労と宝物をむすびつけて考えられたか。
15'	保存会の人のお話を聴く	スライドに出てくる人たちにも、何か大切な思い出があるのかな	・写真に出てくる人たちの気持を予想できたか。
15'	義民の子孫へのインタビューを聴く（VTR）	知らなかった	
10'	・天保義民について、思ったことを発表しよう。	この地域にも、昔の人がとても苦労したことがあったんだ	・天保義民碑と保存会の人々について、自分の考えが書けたか
5'	・学習のまとめを書こう。	昔の人の苦労の思い出を今でも大切にしている人がいる	

② 結果と考察

郷土の先人の苦労を共感的に理解させるための方向づけのへだてとして番組を使ったのであるが、番組視聴だけでは人々の苦労や思い出への理解は充分とはいえなかった(宝物を挙げた数133, 理由として苦労・思い出について記述したもの45, 33.8%)。

次に、義民碑の歴史的背景について話を聞いた段階では、「殿様はひどい」といった圧政に対する反感が約半数を占めた。しかし、義民の子孫へのインタビューを視聴した後、学習のまとめを書く段階では、当時の農民の苦しみや義民への共感を示す児童が多くなり約7割に達した。(下図参照)



このような児童の思考の変化を見ると、義民の歴史について聴くだけでなく、番組やインタビューをミックスすることで、地域の先人の苦労に対する思いを強めることができたように思われる。

最後に、この実践を通して得た収穫を挙げてまとめとしたい。

- ア 地域の歴史や生活を教材化する場合に応用できる授業のパターンを得た。
- イ 地域の事前の個別性と放送番組の一般性を組み合わせることにより、地域に対する理解

を、あるいは逆に番組の意図に対する理解を強化することが可能であることがわかった。

実践-3

① 指導案

「にんげん家族」指導案

- 1. 題名「君には宝物があるか」
- 2. 授業のねらい

地域の人々が大切にしているもの、大切にしているものがなぜ地域に必要なかを考えさせ、地域社会の未来を築いていくことの大切さをわからせる。

3. メディ複合のねらい

地域で活動している人へのインタビューで、地域の特性や活動の意義をつかませ、番組視聴では今

の活動がよりよき地域社会を作ることすなわち、みんなの宝物を作っていくことになるんだということにつなげていきたい。

4. 複合メディア及びその内容

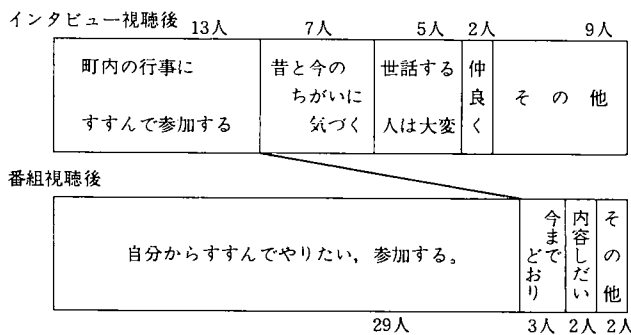
地域の世話役へインタビュー……地域の特性や活動の意義

5. 期待する思考活動

今に生きる人々の心をつなげることが、未来に広がるみんなの宝物を作ることなのだ考えを深めさせ、地域社会の中で行動できる人になってほしいと願う。

6. 指導過程

T	学 習 メ ッ セ ー ジ	思 考 の 変 容 過 程	評 価
5	・町内や地区での行事への参加経験はあるか。	・おみこし、運動会、盆踊り、お祭り、ハイキング、バーベキュー、海水浴	・自分がどう参加し、どう受けとめてきたかが明らかになったか。
5	・なぜ、額地区では行事を新しく作ったり、昔のものを続けたりしていくのか。	・おもしろい、楽しい、みんな喜ぶ	・新しく作り上げる苦労や意義にふれることができたか。
15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・映像「世話役へのインタビュー」 ・活動の内容、苦労、意義 ・額校下の特徴 </div>	・お世話するには様々な苦労がある。 たいへんだ ・急に人口がふえて、いろんな人が寄り集まってきた所、お互いが知らない人々。	
5	・インタビューを聞いてあなたはどう思いましたか。		
5	・なぜ行事や活動をしていくのだろうか？	<苦労して世話するあたりはあるのかな？> サカコザクラ 七宝焼 農具 おじそ様 ...	
15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ・映像「君には宝物があるか」 ・厚目内の人々のたからもの </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 厚目内の人たちの苦労がしみこんでいる。 思い出がたまっている。 </div>	
5	・どんな宝物ができましたか。		
10	・それはなぜこの人たちの宝ものなのかな。	・さまざまな努力や苦労が今の厚目内の生活をささえ、つくってきたのだな。	・物そのものでなく、それにつながる思い
5	・あなたはこれから、町内の行事などにどういう気持ちで参加していきますか。	・額も良い地域にするために人々は努力している。私たちも、もっとすすんでいろんな活動に参加していこう。	出を大切にしていることに気づいたか。 ・地域の活動に積極的にかかわろうという気持ちをもてたか。



② 結果と考察

行事への参加意識は始め「おもしろいから」「さそわれたから」であった。インタビューでは世話役の熱意がかなり伝わってきたので「すすんで参加する」という子が三分の一になった。でも、…の方がいいとか、…しくちやいけないうい方がめだち、まだ主体的とは言いがたかった。番組視聴後は「友達をさそって」「楽しい思

い出になるように」「みんなと協力して」「いろいろなものにちょう戦していく」「ふるさとづくりをするように」等々かなり主体性が出てきたように思う。そして、地域の生活に視点をおいたのは自分とのかかわりが前面に出てよかったと思う。番組を複合させることにより、ふるさとの良さを形づくっていく大きさに目が向いてくれたと思う。